

5月27～29日、大平よしのぶ衆院比例候補は、広島の間中とともに能登半島地震の被災地で支援活動と現地調査を行いました。大平氏の手記と現地の様子を写真で紹介します。

支援物資を小分けにして車に積みこむ大平氏



羽 昨市に設置された被災者共同支援センターで支援物資を積み、震度7の地震が襲った輪島市へ。市内は押しつぶされた家屋やビルの倒壊などが軒並み続き、火災が発生した朝市通りは5カ月たっても焼け焦げた家屋やがれきがそのままの状態でした。



輪島市朝市通り



輪島市鹿磯(かいそ)漁港。
4メートルの隆起が発生

仮 設住宅で暮らす被災者へ米や水をお届けしながら、困りごとや要望を伺いました。「家族4人でこの間取りでは狭すぎる」「洗濯物を干す場所が人目にさらされて恥ずかしい」など仮設での暮らしの不便さ・大変さ、「公費解体の申請はしたがかなりの順番待ち」「今から家を建てなおすお金なんてない。早く公営住宅をつくってほしい」など、今後の住まいについての心配が共通して語られました。「万博なんてやめて建設業者は被災地の復興に集中させてほしい」「自民党議員の裏金を使えばすぐに災害公営住宅を建てられるでしょ！」など自民党政治への強い不満の声も。寄せられた要望は支援センターのスタッフへつなげて支援活動を終えました。

能登で生きる希望をつなぐ

被災地支援 & 現地調査へ

5/27
~29

日本共産党



仮設住宅を訪問し話を聞く大平氏

志 賀原発の調査も実施。地震の影響で使用済み核燃料の一時冷却停止、変圧器損傷による2万リットルの油漏れ、モニタリングポストの故障など様々な深刻なトラブルが発生しました。町の避難道路である国道249号線はあちこちでがけ崩れが発生し今も片側交互通行の状態、屋内退避といっても家屋は倒壊、海からの避難も隆起で船をつけることができない…深刻な放射線被害を受けてしまわざるを得ない状況であることを目の当たりにしました。再稼働などありえない、原発ゼロは本当に急務の課題です。



志賀原発前で地元町議から説明を聞く

政 治の責任、私たちの支援で被災者の能登で生きる希望をなんとしてもつなげねば。何より岸田政権の退場と日本共産党の躍進こそがその大きな力に。全力を尽くします。